



共通教育科

荒木 和美

准教授

【研究分野】
【キーワード】
【U R L】応用言語学、英語教育
英語、音声学、発音、文法、聴解
<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=257ara>

英語の運用能力を高めるための文法教育と 音声システムの習得

研究概要

外国語としての英語の習得には文法の理解が不可欠であるが、運用能力を高めるためには理解に加えて十分な練習が大切である。現在、文法はその言語を話す人々の考え方や文化の一面も反映しているということに注目して研究を行っている。また、オンライン授業の実践を通して、発音と聴解の授業においては、オンラインでの授業は対面と同様あるいはそれ以上の学習効果が見込めることを2021年度は論文としてまとめ発表した。2019年度より、地域国際交流協会との協力事業として、県内中学生、高校生、大学生と都内の大使館訪問を実践している。言語教育には様々なアプローチが必要であり、言語の文化的側面を理解することを目的の一つとした言語教育の実践は、研究の一環でもある。

研究紹介

- ・2019年：[Tolerance toward Our Mother Tongue and Intolerance toward a Foreign Language](#)_pp15-57（原著）ギリシャ、テッサロニキで2018年5月に開催された国際学会第5回Language in Focusで口頭発表した論文。母語の習得における様々な間違いへの寛容性に対して外国語においてははいかなる間違いも修正されることが多い点に注目した。語学学習には長時間の学習を必要とすると同時に背景にある文化的側面への理解が大切であることをこの論文の中で述べた。
- ・2021年：[Teaching English Listening, Pronunciation, and Writing Skills on Line:Less Mobility and More Closeness and Connectivity](#) Tsuda Review #66 December 2021, pp21-30（原著）

講座テーマ紹介

2019年度より、越谷市国際交流協会との協力事業の一環として、市内中学生、県内高校生、大学生と都内大使館訪問を実践している。2021年度にはエジプト大使館を訪問した。この事業の事前準備として、大使館専門職員、大使館職員、留学経験者を講師に迎えリモート学習会を3回開催した。これらの事業に本学学生も参加することによって他大学の学生や県内の学校生徒との交流の機会を持つことで、異文化や言語理解の経験を積むことを目的とした講座内容である。

アピールポイントなど

応用言語学と英語教育を長年にわたって様々な角度から研究しています。これからも新しい見地から学問を探索して行きたいです。